



## 取材記者としての視点から 感じていること

[秋田市観光クチコミ大使]  
農業ジャーナリスト・明治大学客員教授

ささき だ  
榊 田 みどり 氏

### “金農フィーバー”のまっただ中で

実は今、甲子園での金足農業高校フィーバーの真っ最中に、この原稿を書いている。私を含め、全国の秋田市出身者（いや秋田県人）の多くが、仕事そっちのけでテレビに釘付けになり、逆転ホームランに絶叫、まさかのツーランスクイズにまた絶叫、103年ぶりの決勝進出に熱狂している。

金足といえば、農業界で全国的に有名な秋田種苗交換会の生みの親、農聖・石川理紀之助翁の生誕地。食・農業関係の記者である私にとって、その意味でも親しみのある地名だ。

大学でフランス文学を専攻していた私が食・農関係に興味を持ったのは、秋田で生まれ育ったことと無関係ではない。東京で生活を始めたとき、最初にとまどったのが「食」だったのだ。今ほどフードチェーンが整備されていなかったこともあり、食材の鮮度が悪い。しかも高い。学生が入れる価格帯の外食チェーン店では、素材が何かわからないような味や食感の食べ物が出て来ることもあった。（結着剤で端切れ肉をまとめた鶏肉など、今なら製造行程がほぼ想像できるが…）

まだファストフードに侵食されず、豊かで“丁寧”だった秋田での食生活との落差に驚き、大都市の食構造を知ろうと、学生時代、消費者団体でのアルバイトで食品流通や農業現場に足を運んだのが記者としての出発点になった。

### 記者活動をしていて感じること

今も仕事柄、全国各地を取材に歩くが、近年は農村に新しい風を感じる。たとえば、北海道十勝地方では、2015年、チーズ工房や酪農家、建設会社、金融機関など異業種が集まり「十勝品質事業協同組

合」を設立。「十勝ブランド」として共同チーズを開発し製造販売を始めた。

同組合理事長は、農業とは畑違いの建設会社社長で、組合設立の理由をこう熱く語ってくれた。

「十勝の基幹産業は食。食産業が衰退したら、建築業も金融業も他の産業も衰退する。地域経済はみなつながり循環しているんです。だから業種を超え地域全体で、十勝の誇れる食を発信していこうというのが、この協同組合の理念です」

どこの地域も業種ごとの縦割り意識は強い。産業クラスターだ、農工商連携だといっても、それぞれの庇からちょっと片手を出し合って手を繋ぐ程度の連携が多く、経営リスクまで共有してひとつの組織に結集するのは珍しい。背景には、TPP11や日欧EPAなど農業を取り巻く厳しい環境、企業の海外流出と地域の産業空洞化に対する危機感がある。自らの経営・産業だけでなく、「地域」をキーワードに“オール十勝”で戦略を考える同組合の方々の姿勢に感銘を受けた。

秋田市にとっても、農業は基幹産業のひとつ。もっといえば、農業県・秋田の中核都市で、豊かな県産食材をはじめ地域資源を活かしたビジネスの拠点になりうる場だ。“オール秋田”の発想で、秋田の魅力を引き出す事業連携を期待したい。

#### ■略歴

昭和35年、秋田市生まれ。秋田高校卒業、東京大学大学院修士課程修了。消費者団体勤務を経て、1990年フリーランス記者として独立。現在、明治大学客員教授の他、全国町村会「地域農政未来塾」主任講師なども務めながら記者活動を続けている。